



2010.12
No. 62

キャンピング ひょうご

編集発行：兵庫県キャンプ協会 [HYOGO CAMPING ASSOCIATION]

- 1 -

キャンピングひょうご No.62

会員交流プログラム
「BUC」対象事業

いえしま海物語 10月16日(土)～17日(日)

兵庫県立いえしま自然体験センターにて

好天に恵まれた初秋の瀬戸内海は家島で、遠くは青森や奈良からもお越しになった20名の参加者(子ども2名を含む)を迎え実施されました。

姫路港よりチャーター船で西島に入島、昼食後さっそく、海へ向かいヨットとカヌー・カヤックに分かれ海物語の開始です。ヨットには初めての方から、ベテランまでの11名が3艇のミニホッパーに分かれ、まずは、フィッティングの仕方を習い、自分たちでフィッティングを行った後、少し白い波頭の見える海へと乗り出していきました。風は海からの向かい風でなかなか沖へ出れず何度も沈(ヨットやカヌーの用語でひっくり返り海にはまること)しながら、果敢にチャレンジしていました。



カヌーやカヤックも初めて乗られる方が多く、ヨットには気持ちいい風は艇を押し流し、波も少し大きく、経験者でも沖に出るのに悪戦苦闘しながらも秋の海を楽しんでいました。

夕方身体に付いた潮をお風呂で流し、施設のおいしい食事と、船盛りに舌鼓を打ち、その後持ち寄りの懇親会で大いに親交を深めました。

翌日の午前中は、参加者の皆さんでそれぞれ思い思いのプログラムを楽しむことになり、子どもたち2名は釣りを選択。あいにく施設に釣り竿はあるのですが、仕掛けや餌はなく断念と思いきや、なんと、他の利用者の方から度胸と愛嬌で仕掛けを分けていただき、15cm強のカワハギ1匹をゲットしていました。また青森からお越しの参加者は、温暖な瀬戸内の島内散策を存分に楽しまれたようです。



他の参加者は、カヌー・カヤックに乗り、中央地区より野外活動地区までカヌートリップへと出発。前日とは打って変わって心地よい風と、穏やかな波で、思いのほか順調に進み、途中無人島に上陸して一服した後、野外活動地区に上陸し昼食のお弁当を頂きました。帰りは予想よりも皆さんスムーズに、予定していた時間より早く到着して余裕で片付けが出来ました。その後はゆったりとした時間を過ごし、島の秋を満喫いたしました。参加者から、『是非来年もこの企画を実施してほしい』『ヨットに乗れるようになりたいので、みっちりヨット漬けの企画を!』などの声をたくさんいただき、この事業が今後も継続されることを期待して、レポートを終わります。



【海物語 2 日間のプログラム】

1 日 目		2 日 目	
	 	07:00	起床
		07:30	朝食 朝から美味しい魚が登場
09:30	姫路港 集合・受付	09:00	海を満喫プログラムⅡスタート 自由選択ながらほぼ皆、海上へ 岬を迂回 3k 先の野外活動サイトへ 断崖の岩壁を見上げ、海上トリップ
09:50	姫路港 出発 チャーター船にて島へ直行 青空、そして心地よい風	12:00	昼食 海岸にて潮風を受けのんびりお弁当 帰港後、カヌー他を皆で水洗、格納
11:30	いえしま自然体験センター到着 岬から見る施設や景色は最高 開講・主催者挨拶 オリエンテーション		退所準備 閉講のつどい
12:00	昼食	14:30	退所(サイト出発) 岬からもう一度、島の景色を堪能
13:00	海を満喫プログラムⅠスタート カヌー、カヤック、ヨットに 果敢にチャレンジ ヨットは「沈」が続出	15:30	家島出航 チャーター船にて
17:00	夕食・入浴 島の自然たっぷりの夕食 特別メニューの「船盛」も登場 *遅くまで交流の談笑が続きました	16:15	姫路港 着 解散
22:00	消灯		晴天の秋空に恵まれた 2 日間でした 感謝！！

2010 年度新加入 **団体会員紹介****頌栄短期大学**

頌栄短期大学(神戸市東灘区)は、現存する日本最古の保育者養成校で、本年で創立 121 周年を迎えます。保育者養成ひと筋の歴史と伝統を継承して、建学の精神に基づいた教育を行い、新しい時代へ前進しています。

2 年間の学びの中で、学生が保育者として高い専門性を習得できるのは、少人数制教育成果といえます。特に、カリキュラムに実習が多く組み込まれているために、即戦力として多くの幼稚園や保育所(園)から求められています。単位を修得すれば「保育士資格」と「幼稚園教諭二種免許」が取得可能。さらに学びを深めたい学生には、保育科卒業後 2 年制の専攻科へ進む道もあります。



さて、兵庫県キャンプ協会への加入は、保育現場では幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂後、「宿泊保育」「園外保育」「食育」などを通して、子どもたち自らが自然に触れ関わるが多くなりました。活動の体験を通して自然の大きさ、美しさ、不思議さなど直接触れ様々な興味や関心、好奇心、表現力の基礎が培われ、子どもの心情を豊かにし自ら関わろうとする意欲を促してくれます。このことは、幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」に自然の中で活動することの大切さが述べられている。保育現場では一層園外保育や宿泊保育を通して、自然の中で保育活動が積極的に展開されている。

しかし、引率をする保育者自身が自然の中で昆虫や植物観察、野外炊飯、キャンプファ

イヤー、気象、安全についてなどは、小学校での自然体験学習ぐらいで、野外活動経験が少いために苦手な保育者が多い。そこで、頌栄短期大学は 121 年間保育者を養成する大学として、保育現場で活かせるように総合的な自然理解(キャンプ)を学び、安全で楽しく活動を指導できる能力を持ったキャンピンストラクター指導者養成を目指し、昨年当初より準備してきました。



頌栄短期大学は、社団法人日本キャンプ協会より平成 22 年 2 月に資格認定のできる「課程認定団体」として認定を受けた後に、兵庫県キャンプ協会へ加入いたしました。第一回のキャンピンストラクター講習会を、9 月 1 日(水)から 3 日(金)2 泊 3 日、六甲山 YMCA(神戸市灘区六甲山)に於いて 13 名の学生が受講しました。講習内容は、カリキュラム理論 10 時間・実技 10 時間を終了後、社団法人日本キャンプ協会キャンピンストラクター認定試験を行い全員合格しました。

13 名は兵庫県内で保育者として多くの子ども達の成長に関わります。それぞれの地に 13 粒の種が蒔かれ、芽が出て育っていく中で、子ども達と一緒に自然を考え、楽しみ、育むことを期待しています。今後、多くの種を県内に蒔くことのできるように兵庫県キャンプ協会のご支援、ご指導を宜しくお願いいたします。(担当教員) 原 寛

「キャンプを通じた青年への成果」研究報告 研究グループ主宰 原田 礼

(協同研究者) 田頭枝里香 亀山秀郎 森川俊介 山下明美

【はじめに】

20代でキャンプに関わり、20代後半・30代となると生活状況の変化に伴ってキャンプから離れている青年層がいる点。また、離れてはいるけれども活動の意義や魅力を感じている青年層。活動に携わってはいるけれど長時間費やす活動に対し自身に負担が生じてしまっている青年の課題。或いは、活動を主催する側の人手不足。

兵庫県キャンプ協会は私にとっては異世代の方々と共にキャンプを通じて様々な刺激を受ける場でもあります。だからこそ、青年層同士またキャンプ協会と青年をつなげるきっかけをつくるのが青年層に生じている課題の改善に向かうのではと申請しました。

この研究を通じて青年層が現状の生活においても無理ないキャンプへの関わりを探りつつ、この研究活動自体、青年が抱える課題を改善する1つの活動(方法)となるように願い、社会や人づくりを目指すキャンプへの関わりが幅広い世代においてより持続可能な関わりとなる基盤づくりに向けて、まずはキャンプを通じた青年への効果・実態を明らかにすることを目的とした研究をスタートしました。

【方法】

1. キャンプ経験を有する20代～30代の青年層を対象のアンケート<回収期間：11月～3月>を実施。
2. アンケートの分析及び今後の研究活動についてアンケート回答をきっかけに研究協力者となったメンバーと研究活動を進める。
3. 2月に関西野外活動ミーティングにおいて研究概要を研究発表。
4. アンケート回答者による意見交換会を実施。
5. 意見交換会参加者の発案により、主に意見交換会参加者を参加者とする青年キャンプの実施。

※4及び5はH22年度実施の為、経費は研究助成外として実施。

【主にアンケートからみた結果】

アンケート回答者数 計181名

内訳：男性 74名 女性 107名

20代前半 114名 後半 27名 30代 40名

調査結果①

現在キャンプに関わる活動をされていますか？

はい 70% いいえ 30%

「はい」の回答者から「どんな理由で関わっていますか？」選択肢から該当する理由(複数回答)を求めたところ表1のとおり。

(表1)

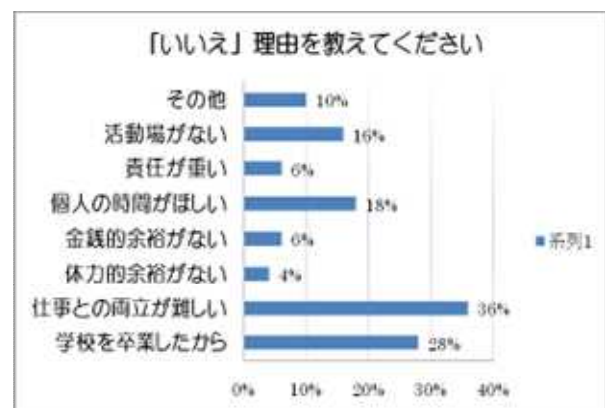
	20代前半	20代後半	30代
後輩育成	33.7%	63.6%	56.3%
自己の成長	85.4%	72.7%	50.0%
趣味	39.3%	63.6%	31.3%
活動持続維持	20.2%	18.2%	37.5%
楽しさ	74.2%	90.9%	50.0%
自己実現	39.3%	27.3%	37.5%
責任	37.1%	27.3%	43.8%
異世代交流	24.7%	27.3%	25.0%
出合い	37.1%	27.3%	12.5%
引き際を模索中	5.6%	9.1%	6.3%

これらの結果から、活動を継続する理由として「楽しさ」と回答した割合は、20代前半74.2%、20代後半90.9%に対し、30代は50.0%と減少していることが分かる。一方で「後輩育成」「活動持続維持」「責任」では、該当すると回答した割合が20代に比べて30代が高くなっている。

また、「はい」の回答者のうち、今後も何らかの形で活動に携わることを希望するか設問したところ、90%が希望すると答えた。

次に、「現在、キャンプに関わる活動をされていますか？」の設問で「いいえ」の回答者から選択肢から該当する理由(複数回答)を求めたところ表2のとおり。

(表2)



また、現在は活動に携わっていないと回答した方に対し「今後も何らかの形で活動や活動の支援に携わることに興味はありますか?」と問うた結果、はい 69% いいえ 31%であった。このことから現在活動には関わってはいなくても活動経験ある青年が活動や活動の支援に関心が高いことが分かる。

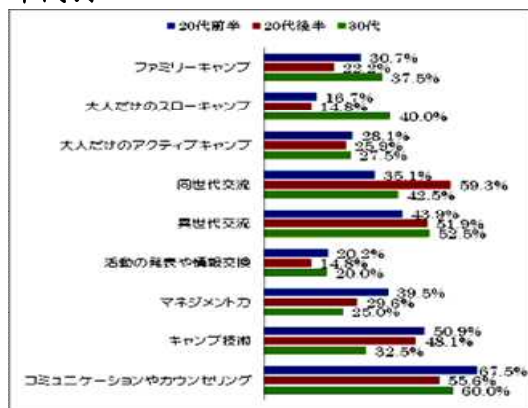
現在の活動有無に関わらず今後も何らかの形で活動に携わることを希望する理由の自由記述では次のような記述があった。

- ◎ 出会いの場であるので、人とのつながりを増やし、いろんな人と関わることで自分を高めたいから。
- ◎ 活動でたくさんのことを得ることが出来たから、恩返しをしたい。
- ◎ 自身の成長に大きく影響しているから。
- ◎ 将来自分が親になった時に子どもにどう接すればいいか今から経験しておきたいから。
- ◎ 一緒に何かを乗り越えることで「友達」から「仲間」「同志」という存在、大切さを心から感じる事が出来た。
- ◎ 人生を楽しく生きるため。
- ◎ 青春。
- ◎ 同世代や目上の方を対象としたキャンプの機会があれば、携わりたい。
- ◎ 短大時代に活動を行っていたが、活動期間が短くリーダーとしてやりたい事と自分の成長との間にギャップがあり、色々なことが出来なかった。また、社会人になったばかりの時は、会社や仕事、社会に順応する事に精一杯で活動を続ける余裕が無かったが、今ならば機会があれば是非携わりたい。

調査結果②

「キャンプに関してどのような企画内容に関心がありますか?」と問い(複数回答可)とした結果をそれぞれ年齢別、経験別、既に会員・会員外で分析すると次のとおりとなった。

<年代別>

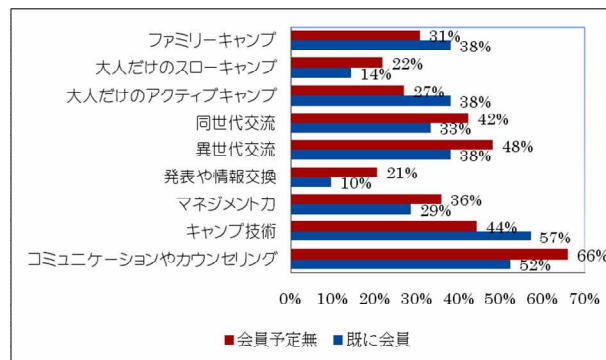


<活動経験別>

P: プログラム M: マネジメント W: プログラム・マネジメント

	Pリーダー	Pチーフ	Mリーダー	Mチーフ	Wリーダー	Wチーフ
コミュニケーションやカウンセリング	72%	76%	77%	79%	76%	77%
キャンプ技術	54%	55%	48%	44%	52%	45%
マネジメント力	40%	49%	50%	59%	40%	36%
活動の発表や情報交換	21%	29%	23%	24%	29%	41%
異世代交流	49%	67%	47%	59%	55%	68%
同世代交流	38%	49%	36%	50%	43%	59%
大人だけのアクティブキャンプ	25%	31%	26%	38%	31%	32%
大人だけのスローキャンプ	21%	22%	17%	29%	24%	27%
ファミリーキャンプ	31%	39%	30%	44%	36%	50%

<キャンプ協会 会員外・既会員>



調査結果③

キャンプ活動を通じて自分自身にどのような変化を感じているか幾つか設問し、5段階の「非常に変わった」から「全く変わらない」の中から該当するものを回答するよう求めた。そこで、「非常に変わった」と答えた項目が最も高い設問については、20代前半及び30代は「企画運営力」、20代後半「学校や職場での人間関係づくり」が自身の変化として最も高く感じていることが分かった。

【さいごに】

日本キャンプ協会をはじめとする各県協会やアンケートの回答者、関係機関・団体の方々などの多大なご協力を頂きました。記入項目が多いアンケートにも関わらず、自由記述に応援メッセージやエールを頂き、本当に感謝しています。

研究助成がきっかけとなり“動き”に変わり、研究自体の共感性の高さを実感する中、同志の輪が広がり、様々な再会があり、そして、欠かせない存在の同志と共に取り組めた研究活動となり、とても嬉しく感じています。今後は課題改善に向けたキャンプの実施など何らかの形で頂いたチャンスを活かして活動を育んでいければと思います。この研究活動が少しでも皆様にも役立てれば幸いです。

【研究を経て】

この度の研究活動に参加させていただき、社会人になってキャンプ活動から5年間離れていましたが、この研究のアンケートに回答したことからキャンプ活動に再び参加することができました。今回、野外炊飯などの活動を協力して行うことで、現代生活から失われた共同作業の効用が実感できるものでした。

便利な生活の中で人間関係の希薄化が進みつつありますが、キャンプは謙虚さと、暮らしの原点を思い出させてくれるツールだと感じました。

そして、社会人が1つの目標に向けて力を合わせるということに価値があり、キャンプをすることで、この研究で調べていたような「青年への効果」にも十分な成果が期待できると思えました。これからもキャンプをやりたいです! (田頭)

2010年度 **新理事紹介**

新庄和文さん

キャンプ協会との関わりと自己紹介

座右の銘は？ 『人生意気に感じる』

一度しか無い人生、精一杯生きていきたいと思います

趣味は？ 『人と関わること』

高校時代、JRC (Junior・Red・Cloth) 青少年赤十字に所属したことから始まり、青年赤十字奉仕団、子ども会、兵庫県青年洋上大学と40年間、活動を通じてたくさんの人と出会うことのすばらしさを実感しています。

私が所属している兵庫県青年洋上大学同窓会は、次世代を担う青年が船内活動や訪問地活動を通じ自己啓発に努めるとともに、地域・職域・団体等において青少年指導者として活動していくことを目的とした団体です。

そこで私は2年間代表者として団体の運営に関わり、レクリエーション事業・震災後のメンタルヘルス活動等を致しました。

ところで、兵庫県キャンプ協会との出会いは、1990年秋のキャンプ協会主催事業が初めてです。その後、中・上級指導者講習会を（当時は母と子の島）兵庫県立いえしま自然体験センターで受講し、キャンプデレクター1級に合格し、現在に至っています。

また、国際キャンプフェスティバル、10周年事業、20周年事業などを通じて『多くのひと』と出逢い、理事として今年度から活動することになりました。

【休日の過ごし方は？】

昔から家の者には「自分の子供をほったらかし？」なんて言われるほど休日は、野外活動にいそしみ楽しんでます。活動の無い日は勿論、家でゴロゴロ充電しています。

【子供の頃の夢は？】

子ども相手のお店を開きたいと思っていました。「たこ焼き屋さん」の様な感じかな。

【これだけは負けないぞと思うことは？】

干支は『へび』、血液型『AB型』、星座は『蠍座』と自分勝手な思い込みですが、粘り強さを持っています。だから、いまま青少年活動から離れることができません。

こんな『私』ですがこれからもヨロシクお願いします。

(この頃 あれこれ) 「いえしま海物語2010」は盛況のうちに終わりました。BUC 対象事業としての実施でしたが、家族参加もあり、味覚も加わりまさに[海]満喫の楽しいプログラムでした。定員一杯の参加者からしても次回への期待を強く感じます。この11月20～21日にも、今度は陸上に移し、三木市内の施設でBUCを計画してますが、こちら青森、広島、鳥取、大阪からの参加者を含め定員20名を超えました。この内容は次回のこの紙面でご報告します。皆さんとにかく動いて楽しい講習を期待されてるようです。

《 編集後記 》

兵庫名水百選の千寿の水を汲みに行った際、河原にテントを張って川遊びをしているキャンパーを見かけました。なんでも、各地の湧水の出ている場所へ行ってはキャンプをしているとの事。名水で沸かしたコーヒーをごちそうになりましたが、おいしかった！

広報委員会 (K. A)

＝ 兵庫県キャンプ協会事務局 ＝

〒650-0011

神戸市中央区下山手通 4-16-3

兵庫県民会館 8F OAA 気付

TEL/FAX 078(333)7677

HP <http://hyogo.camping.or.jp/>E-mail= hyogo@camping.or.jp